

北海道医療大学学術リポジトリ

編集後記

著者	北海道医療大学歯学会
雑誌名	北海道医療大学歯学雑誌
巻	40
号	1
発行年	2021-06-30
URL	http://id.nii.ac.jp/1145/00064983/

編集後記

コロナ感染拡大の収束の糸口が見えない令和3年も、前半戦を終えて、中盤戦を迎えようとしております。コロナと日々闘っている医療現場の皆様には深く感謝いたします。また、このような過酷な状況におきましても、精力的に論文等を投稿していただいた皆様並びに論文の査読を快く引き受けていただいた先生方に対しましても心から感謝申し上げます。

本号は総説1編、原著論文4編、症例報告1編、解説論文1編並びに最近のトピックス2編の投稿をいただき、ボリューム的にも、内容的にも大変充実したものになりました。巻頭の総説ではEnrique Ezra ZÚÑIGA-HEREDIA先生（歯科矯正学分野）から、生体活性ガラスの特性を中心にバイオマテリアルに関する最新情報が提供されています。原著論文では、原田文也先生（顎顔面口腔外科学分野）からホップ抽出物のキサントフモールによる細胞増殖抑制効果が示されており、キサントフモールによる毒性の低い新たな抗腫瘍薬の開発の可能性が示唆されています。洪井徹先生（解剖学分野）からはエナメルマトリックスデリバティブによるハイドロキシアパタイト顆粒に対する歯根膜用組織再生が示され、インプラント治療における新たな手法への展開が期待されます。岡村敏弘先生（予防医療科学センター医学部門）からは歯科材料供給における都道府県格差が報告されており、これらの現状と自費料金の地域格差との関連性が示唆されています。松本崇嗣先生（歯周歯内治療学分野）からはアルカリ性電解水とナタマメ茶を用いた洗口による口腔内歯周病原性細菌数の減少効果が示されており、誤嚥性肺炎予防やエアロゾルへの本法の応用の可能性が示唆されています。また、症例報告では、岡山三紀先生からアンカースクリューを用いて非抜歯治療で改善した叢生症例が紹介されています。さらに、解説論文として、保田好隆先生（保田矯正歯科）からは3Dプリンターを応用した新たな矯正治療の手法が紹介されています。最近のトピックスでは、組織再建口腔外科学分野の島谷真梨先生からカルモジュリンタンパクをターゲットとした抗癌剤治療について、同分野の堀江尚弘先生からはオルガノイドによる再生医療に関して最新の知見をそれぞれ紹介していただいております。いずれも大変興味深い内容ですので、是非ご一読ください。

今週（6/21 月曜日）から、本学におきましてもコロナワクチンの大規模な職域接種が始まっております。これらは、大学教員や学生さん達のみならず、全ての大学関連者、延いては地域住民の皆様とのスクラムの基で実現されたものであり、本学の目指す地域社会及び医療貢献のあり方を見据える上で大きな収穫になるのではないかと考えています。コロナ禍によりできないことよりも、コロナ禍だからこそできることに目を向けることで、未来は変わってくるのかも知れませんね。今後も、歯学雑誌のさらなる充実に努めて参りますので、引き続きご支援ご協力を賜りますようどうかよろしく願いいたします。（石井 記）

次号（第40巻、第2号）の発行は令和3年12月31日です。

投稿原稿募集の締め切りは令和3年9月30日必着と致します。期日厳守の上、ご投稿をお願いします。本誌投稿規定は、2021年第40巻、第1号の巻末をご参照ください。